

■水田に必要な水量はどうやって測るの？

(1) 一筆水田の平均減水深（蒸発散量+降下浸透量+横浸透量）を求める方法

▼水田の中央付近に杭を打ち込む。

受講生：垂直に打ち込むのはちょっと難しかった。

▼杭に物差しを当てて水位を測定。

1日後の水位の差が減水深（mm/day）です。



杭には基準となる釘を打ち込んでおく

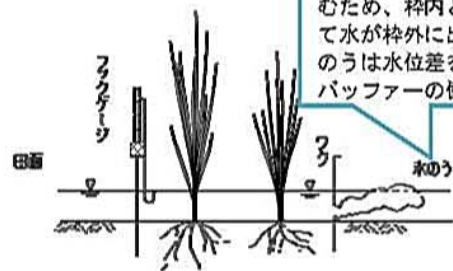
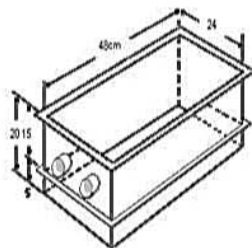
(2) 一筆内の特定地点における浸透量（蒸発散量+降下浸透量）を求める方法

▼N型減水心測定装置

①底の抜けたステンレス製の枠です。

丸い穴には水袋（氷のう）を付けます。

②水袋は、枠内外の水位差を解消するための工夫です。



③水位を計測するフックゲージを取付け。



④稲2株程度が入るように設置し、5cm程度埋め込む。



⑤フックゲージの先端を水面に合わせる。



⑥赤線の位置で目盛りを読む。24時間後に差を読み取る。



測定する際は、氷のうに逃げた水を一時的に枠内にもどしてから値を読む

●N型減水深測定器は、水田畦畔からの横浸透を含まないので、蒸発散量（3~5mm/day程度）を差し引けば、その場所の降下浸透量が求めることができます。さらに、一筆減水深の値からN型減水深測定器の値を引くことで、畦畔からの横浸透量が分かり、水田からの漏水の原因を特定することができます。